

活動団体： シェア=国際保健協力市民の会

いのちを守る人を育てる国際協力 NGO

団体の活動



カンボジアのプレアビヒア州で、乳幼児の栄養改善プロジェクトを行っています。乳幼児期の栄養不足によって起こる低身長を発育阻害といい、カンボジアの田舎では 25%の乳幼児が発育阻害状態です。シェアでは栄養改善のために、現地の保健ボランティア、保健センター、女性子ども委員と協力し、乳幼児の身長体重測定、離乳食教室、母親学級を行っています。このような地域の人たちが自立して活動を継続できるよう支援しています。

<https://share.or.jp/about/index.html>



体重測定をされる乳児



離乳食教室で試食している様子

インターンプロフィール

榎渕 澪



幼少期をブラジルで過ごした経験から、国際保健を志しました。日本で医師として勤務した後、ロンドン衛生熱帯医学大学院で公衆衛生学を学びました。途上国の現場から学ぶため、シェアでのインターンを志願しました。

所属団体で活動するきっかけ

公衆衛生学を学ぶ中で日本の臨床現場と違う疾病構造・問題を目の当たりにしました。このような中低所得国の現場で、実際に受益者がどのようなことに困っているかを知るために、シェアでのインターンを志願しました。

どのような業務(活動)をおこなっているか

シェアで現在行っているプレアビヒア州での 5 歳未満児の栄養改善プロジェクトにおける、ベースライン調査のデータ分析をしています。この業務により、シェア介入前の発育阻害の有病率や、その原因となる離乳食摂取状況や衛生状態、ケアギバーのリテラシーなどの要素を解明します。また、農村部での離乳食教室・乳幼児検診に同行し、実際の活動の様子を見学します。

スキルアップのためにしていること

WHO が発行している Demographic Health Survey などの発行物により、国全体での栄養状況や健康問題全般について学んでいます。また、中低所得国で行われている栄養関連の科学論文より、最新のエビデンスについて学んでいます。

海外研修について ~どこで何を行う予定？

7月から、カンボジア プレアビヒア州で研修を行います。現地代表および現地スタッフのご指導のもと、データ分析を主な業務とし、それ以外にも乳幼児検診や離乳食教室に同行します。

今後のビジョンは？

国際保健分野でプライマリケア・母子保健の専門家としてキャリア形成することを目指しております。そのために、留学先での公衆衛生の勉強や、シェアでのインターンを行っております。

国際協力分野で活動を目指す人へのメッセージ

私自身もまだ駆け出しの身ですが、大学院の留学や現場経験はとても楽しく、生涯をかけてこの分野に従事したいと感じました。初めの一步は勇気がいると思いますが、一緒にこの分野を盛り上げていけたら嬉しいです。

R6_シェア=国際保健協力市民の会 榎渕 濤

団体アピール

シェア=国際保健協力市民の会は、1983年に国際保健分野で活動を始めた、日本発の国際協力NGO団体です。現在は3カ国における国際保健支援活動と、政策提言・普及啓発活動の2つの事業を主に取り組んでいます。



プノンペンでの栄養関連の勉強会



ある村の女性子ども委員会の会議